

さんけん

ネットワークニュース

2008

32

発行人：三健ネット会会長 門馬義幸 発行日：平成 20 年 1 月 1 日 三健ネット会事務局 東京都狛江市東野川 1-34-14 日本ライフ㈱内
TEL03-3488-8700 FAX03-3488-9921 <http://www.nihonlife.co.jp/> mail@nihonlife.co.jp

世界に目を向けた農業政策を願う

三健ネット会事務局 門馬義幸

あけましておめでとうござ
います。年頭にあたり、会員の
皆様のご健勝を心からお祈り
申し上げます。

『ミッシェランガイド』の東
京版が昨年 11 月 22 日に発売さ
れました。英語版も世界 90 カ
国で発売されています。都内で
150 店が星を得、3 つ星店も
8 店もありました。その結果に
は賛否両論が出ていますが、東
京の食文化が世界で認められ
たのは確かです。今や日本の食
文化はこれまで以上に世界で
注目され始めたのです。これか
らは世界が日本に注目するよ
うに、日本も広く世界に目を向
けたいものです。たとえば農業
です。日本人の主食は米ですが、
米価は毎年下がりがり続け、米を生
産している農家さんの多くは
厭世観さえ感じています。それ
に追い打ちをかけるように、政
府は、米の備蓄は適正水準の

100 万トンに達しているの
で、来年度は余剰米を備蓄には
回せないと表明しています。米
問題の対策は生産調整の着実
な実施しかないというのが現
状です。何故、政府は国内にし
か目を向けないのでしょうか。政
情不安や地球の温暖化の影響
もあり、海外ではその日の食べ
物にも困っている国がたくさ
んあります。ODA（政府開発
援助）で寄贈した物品が役に立
たなかった例も多いとよく耳
にします。食糧援助として米は
使えないのでしょうか。もちろ
ん、ただ米を送ることだけが援
助活動ではありません。自立支
援活動こそが大切だと思いま
す。本当に必要な物品、技術面
で困っている国に援助するこ
とが真の人道支援なのではな
いでしょうか。

昨年の 11 月 15 日にはバン
グラーデシユを大型のサイクロン

が直撃しました。その規模は 1
991 年に 14 万 3 千人の犠牲
者を出したサイクロンに匹敵
するといえます。医療と食糧の
援助が最優先です。日本の備蓄
米から食糧援助として米を送
ることが何故できないのでし
ょう。またアフリカ諸国も政情
不安も一因となり、飢餓で長年
苦しんでいます。あまり知られ
ていませんが、アフリカでは米
の消費量が増えているのです。
年間消費量が一人当たり 10
0 kg を超えている国（日本は約
70 kg）は、セネガル、ガンビ
アなど 6 カ国もあるといいま
す。確かに、アフリカもバン
グラーデシユも日本とは食べる米
の種類は違つてでしょう。しかし、
食糧がないときに米の種類う
んぬんなどとは言っていられ
ません。米は鍋と水さえあれば
調理できます。国内の農家から
政府が適正価格で買い取り、そ
れを必要としている国に送る
ことを考える時期ではないで
しょうか。日本の米は安全でお
いしいと海外でも評判です。生
産者が自信を持って、米を栽培

し、相手国も喜んで受け入れ
れば、これこそ真の援助といえる
でしょう。人間、食糧と水がな
ければ生きていけません。地球
温暖化が問題になってきている昨
今、日本だけの備蓄だけではな
く、広く世界に目を向けた米の
備蓄も必要だと思えます。これ
も立派な国際貢献だといえる
でしょう。減反等で一度休耕田
になつてしまつと、元に戻すこ
とは容易ではありません。これ
以上休耕田を増やすことは断
じてすべきではありません。余
剰米をどのように扱うか、官民
一体となつて真剣に考えなけ
ればいけない問題です。米粉を
利用し、パンや麺を製造する動
きが出てきました。光明がさし
てきた思いがします。日本人の
主食である米作りに当社のア
ーゼロン・C をはじめとする微
生物資材が少しでも貢献する
ことを願つてやみません。今年
もよろしくお願いいたします。



特集 産地を訪ねて

(千葉県 多古農産 代表取締役)

飯塚明司さんにお聞きしました

飯塚明司さん(農業生産法人・有限会社多古農産代表取締役)

飯塚さんは20年以上もアーゼロン・Cをお使いになつて

います。アーゼロン・Cは食堂でいうのれんと同じように考えていて、土のパートナーとして使うパターンが決まっているとのことでした。



多古農産は千葉県多古町で

ニンジン、大根、ジャガイモを中心にか栽培しています。耕地面積は金子種苗の「園芸ニ

ユース 57」(2000年)

で紹介された時は12町歩でしたが、その7年後の現在は

35町歩にまで規模を拡大しています。「ちばエコ農産物認

証生産者」の資格も取得しています。千葉県では堂本知事

の方針もあり、硝酸態窒素の削減に力を入れていることでも有名です。

飯塚さんの斬新な考え方と

実行力にはいつも頭が下がります。今までの農業は高齢者

主体のところが多かったのですが、若い人が集まれる集団

を目指しているとのこと。事実、会社組織にし、給料の

他に年に2回ボーナスも払い、

「ちばエコ農産物」生産ほ場	
1 生産者氏名	飯塚明司
2 ほ場所在地	多古町丁字481
3 面積	95アール
4 作物名(作型)	びんじん (秋まき)
5 栽培開始年月日	平成19年8月7日
6 収穫予定年月日	平成19年12月1日～

若い人材を20人も採用しています。四年生大学の出身者もいて、4月からは東京農業大学を卒業する学生も入社予定とのことでした。

多古農産では、現場リーダーに任せて、毎日、朝礼をしています。「何故、この仕事が必要なのか、自分で考え、現場で意見を出し合いながら、自分の仕事をイメージすることが大切。」という考えから、

飯塚さんは、自分は口を出さない方針です。班長は日程表を書いていきますので、飯塚さんはそれに目を通し、必要があればご自分の意見を出すそうです。

これからは若い人達にとつ

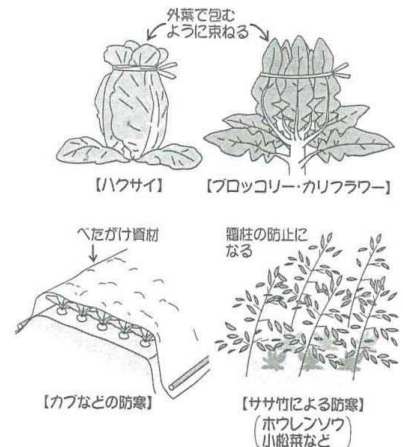
葉根菜類の保存方法と防寒 その1

秋から冬にかけて収穫する葉物野菜は、温度が低下してくると、体内に蓄積されている養分を糖などに変えて身を守ります。低温により、外葉などは枯死が目立ってきますが、あくが抜け、うまみが増してきます。生食にこだわらず、葉物野菜の煮食のおいしさも味わってみましょう。

防寒対策 生育段階にあわせて

防寒対策はいろいろありますが、生育の段階にあわせて対策は異なります。

白菜、大根、キャベツ外葉で可食部分を包むように束ねます。大根、人参は根部が地上に露出してくると低温障害を受けやすいので、土寄せをしておきます。カブなどは露出部分が多いので、凍害を受けやすいため、べたがけ資材などで防寒が必要です。ほうれん草、小松菜、からし菜などの軟弱野菜は低温条件下でも緩慢ながら生育するのでササ竹を立てたり、わらや枯れ草を散らしたり、霜よけをしてやると充分越冬します。春菊はほうれん草などと比べ、低温に弱いので、低温で枯死することはありませんが、ビニールトンネルなどで保温します。



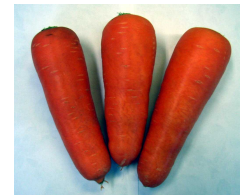
て、魅力のある農業、すなわち儲かる農業をしていく必要があり、そのためには何をすべきか飯塚さんは常に考えています。GAPが最近、話題になっていきます。GAPの手法は農業従事者自らが(1)農作業の点検項目を決定し、(2)点検項目に従い農作業を行い、記録し、(3)記録を評価し、改善点を見出し、(4)次回の作付けに活用するという農業生産工程の管理手法です。飯塚さんの現在行っている



9月に訪問したときの写真です。人参が発芽したばかりの畑です

ることがそのままGAPの管理手法につながっています。GAP(それもヨーロッパギヤップ)の取得も視野に入れているとのことでした。飯塚さん曰く、「ヨーロッパギヤップは現在取得する必要はないかもしれない。しかし、将来の農作物の安全、安心を考えると国際規格も考慮に入れる必要があるだろう。」そのようなこともあり、先日、横浜ランドタワーで行われたヨーロッパギヤップの講習会にも出席されました。講演は英語で行われ、日本語の通訳がついたとのことでした。(註 ユーレップギヤブ1997年誕生。欧州小売業組合が定めた適正農業規範。GAP-農業生産工程管理手法...1998年に米国で提唱され、欧米などで普及が進んでいる。)

現代農業のかかえる問題点としては、飯塚さんは中堅の指導者がいないことをあげています。今、働いている若い方を中堅のリーダーに養成し



なくてはならないと考えています。

補助金、助成金についても飯塚さん独自の考えをお持ちです。以前、県からの5割補助で、ニンジン、大根のパック用機械を購入したことはありますが、補助金、助成金に頼ると甘えが出てしまうので、頼りすぎないようにしているとのことでした。当社(日本ライフ)はつい頼りがちになつてしまう傾向があるので、飯塚さんの姿勢を学ぶ必要があると思われました。

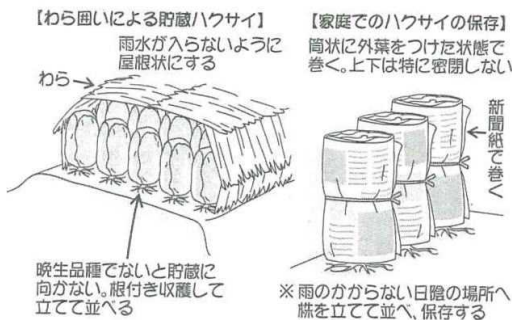
飯塚さんにはお忙しいところ、長時間の時間を割いていただき、畑にも案内していただきました。いつもながら大変、勉強になりました。本当にありがとうございました。

葉根菜類の保存方法と防寒 その2

保存方法 葉菜類 雨よけ日陰で

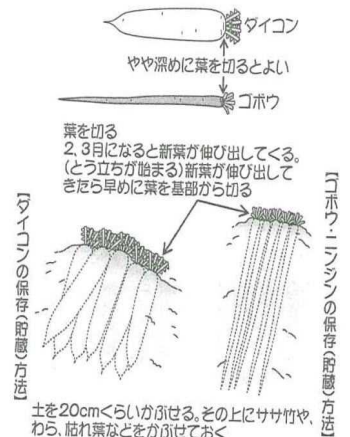
葉菜類は低温に強く、緩慢ですが低温条件下でも生育を続けます。したがって、長期保存することは難しく、できる限り長く保存することになります。

家庭では、白菜などは新聞紙でまき、雨のかからない日陰で立てて保存しましょう。収穫した白菜は雨水が入らないよう屋根を作るようにわら囲いします。



保存方法 根菜類 浅く埋め土かけ

サツマイモ、サトイモ、ショウガなどは低温に弱いので、収穫して貯蔵します。しかし、ジャガイモ、ヤマイモ、大根、人参、ゴボウなどは低温に強く、土に埋もれていれば、障害を受けにくい作物です。浅い穴に根菜をまとめて収納して土をかけた程度がよいでしょう。



日本農業新聞 2007年11月24日号より

会員の声

自慢の菊で金賞

アーゼロン・Cで菊を丹精込めて作っています。毎年、市の品評会に出品し、数々の賞をいただいています。今年も菊花会会長賞、弁財天賞、J Aマインズ賞、小島審査員長賞、金賞と、多くの賞をい



小山さんとご自慢の菊たち
盛りを過ぎているとは思えないほどの美しい姿と香りに感動しました。



ただきました。菊の品種は数十種類と多く、一つ一つ枝ぶり、葉ぶりを観察し、手をかけ、育てます。

まず、土づくりからはじめ、アーゼロン・Cは、4月から7月半ばまでに施肥し、8月からは窒素が余り利かないよう注意し、花が咲き始めたら、肥料はやりません。花が咲き終わる11月末ごろにまた、アーゼロン・Cをやると新芽が元氣よく育ってきます。品評会にちょうどよい見頃に咲かせるのは難しく、今年は花が早すぎたかなと思いましたが、無事出品できてよかったです。

(狛江市 小山末幸さん)

農業で独立したい人・作物を育ててみたい人

応援します！

株式会社ベルファーム 代表取締役 鈴木静夫

本当に農業をやりたい人を応援します。

株式会社ベルファームは、関東平野のほぼ真ん中のつくば市の南に位置し、青汁の1環生産を行っています。消費都市東京へ50kmと近く利便性は抜群です。

品目は、青汁の原料であるケールとにんじんを栽培し、共に100%のジュースを製造、販売までしています。今回、広い大地に移転し、加工工場を新設します。生産から加工まですべて有機で一貫しています。農業とは、生命産業であると思っております。故に携わる人のこだわりが必要です。作物は正直で、嘘はつきません。出来た作物はその人の結果です。

このように農業は楽しいは

ずなのです。また自然に学ぶべきことの多さに日々ドキドキ、ワクワク、また出来た作物に人は一喜一憂し、お客さまからの反応が、さらに自分を励まし、勇気つけてくれます。これが農を生業とする農業と思っています。

小生も東京に20年暮らし、ある日農業をやろうと思いい、このつくばに来て、17年になりました。幾多の困難がありました。やってよかったと思っております。

現在、農業はやりたくてもできないのが現状です。それは、土地を貸してもらえない、50a持たないと農業者になれない等々制約が多く、勉強の場さえ持てないからです。

小生も農業について何の知識も経験ありませんでした。

「ただやってみよう」の一念で飛び込んだ新規参入者だったのです。初めの1年はただただすべてに於いてカルチャーショックの連続でした。現代農業の慣行農法への疑問が日増しに強くなり、有機農法への憧れがありました。どうしたらいいのかわからなく悩んでいるときに、日本ライフの原沢さんと出会い、アーゼロン会の勉強会に参加し、有機農法を学ぶに至りました。

小生は農業についてなにも知らなかったのがよかったと思っております。素直な気持ちでそれらを信じ、実行できました。農業はやってみれば良い悪いの結果がでます。結果修正は本人の努力にかんじます。作物は正直です。故に努力が報われるのです。ここに農業の楽しさを見い出すべきだと心得ています。

私共の会社も耕作面積7ヘクタールほどになり、今まで多品種を生産してきました。勿論、無農薬 無化学肥料での生産です。アーゼロン・

このおかげで土中微生物が活性化し、すばらしい土を造ってくれました。生産マニユアも確立しました。

圃場が出来、そこからの生産物を加工する工場が出来ましたので、農業をやつていきたいという人や、作物を育ててみたいという人たちを、男女を問わず応援できればと考えています。

それというのも、小生は新規参入が故に、見ず知らずの人には土地を貸して貰えず、

知った人に借りると「農業委員会には通さずに」と言われ、市の農業課からは間小作と言われ、3年間位苦労した経験がありました。50 a 農業委員会に正式に登録しないと農業者にはなれないのです。「委員会に通さずに」とは、借地年数が決まってしまうと売買が出来ないから嫌がられるのです。もつと大変なことは、慣行農法の畑と地続きでは、農薬飛散があり、借りてもしょうがないこともあります。圃場一つとっても手に入れるの

は至難の業です。農業も、この現状では、新規参入者がやりたくても出来ないのが現状でしょう。

私共は、それらの問題をクリアし、今多くの圃場を得ることができ、新規参入者受け入れのお手伝いができるようになりました。圃場の確保、生産計画、販売までの経済効果等（生産物買い上げ）までもリカバリーできるようになりました。

約2年間の実習は必要ですが、その後圃場は提供できま

ことが大事です。小生が新規参入の際経験した苦しかった諸問題を解決し、農業に従事できたらいいという思いから、本当に農業をやりたいという人達への応援バックアップなので

連絡先
株式会社ベルファーム
茨城県つくば市
高崎 2 2 7 7 - 3 4
TEL029-830-7888
FAX029-830-7676

あなたがそのこだわりが今の農業には必要なのです。どうぞ、ご相談ください

近況報告

新聞に掲載

肥料農産新報2007年夏季特集号に日本ライ

フ(株)門馬義幸常務が「健康を考える 迫りくる高齢化社

会」と題して、日本は近い将来、老人大国、長寿国となるが、病人が多く、この先不安が一杯である。

健康を維持するには自分の体は自分で守り、病気になるな

いよう努力することであろう。私も安全・安心で、栄養豊富な農産物を食べ、できるだけ歩くことで、健康の維持を心がけている。

食物は、その地域のものが最も良いということで、今後は輸入品を減らし、国内の自給率を上げることが重要である。安全で健康な農作物の生産、その他に当社の「バイオ健康肥料アーゼロン・C」「養鶏用微生物資材」が少しでも貢献できることを願ってやまない

という内容の記事が掲載された。

講演会

福島県相双農林事務所農業普及部主催の平成

19年度第一回職員資質向上研修会が、9月13日福島県南相馬合同庁舎会議室で開催されましたが、日本ライフ(株)の門馬義幸社長も講師として招聘され、微生物を利用した農業資材の現状と展望について」と題して講演をおこないました。当日は農業普及部の職員始め約30名の出席者がありました。

販促キャンペーン

川崎市のホームセンター「スズキハウジング」

で10月6日に、恒例の秋の謝恩販売会が開催され、日本ライフ(株)からも門馬常務他が参加し、店頭「アーゼロン・



「C」の小旗を掲げ、パネルを展示し、来客にバイオ健康肥料「アーゼロン・C」の商品説明と販売をおこないました。



雑誌に掲載

ア ニュー(株)発行のアニ ニーム・ブメントプ

レス9月号に、家庭からの排水も河川の汚染源となるので、複合有効微生物群アーゼロンを活用して、家庭排水を浄化することで、河川の浄化、汚染防止につながる。

米のとき汁は腐敗等で汚染さ

れるが、アーゼロンの希釈液

で発酵させると、洗浄効果が

あり、排水パイプも洗浄され、河川の浄化にも役立つ。また、この希釈液を入浴後に壁やタイルにスプレーすれば、汚れや黒かびを抑制、その他ゴキブリ、蚊、虫などの忌避効果もある。毎日の生活に「アーゼロン」をもっと身近に：という内容の記事が掲載されました。

同 じくアニーム(株)発行 のアニーム2007

年第3号に次の内容が掲載されました。

環境浄化剤アーゼロンの



開発者日本ライフ(株)の門馬義芳社長の「微生物なくして地球は守れない。アーゼロンを家庭で使うことが環境蘇生につながる。清潔で健康的な生活づくり、そして美しい地球環境づくりにアーゼロンをお役立てください」という談話の記事
「化学薬品のない複合有効微生物群アーゼロンとの暮らし」と題してアーゼロンの多岐にわたる効果等の記事
美容と健康の欄に「腐敗菌から家族を守るアーゼロン」と題して、人体や

環境にやさしいアーゼロンを使うほどに地球環境が良くなるとし、アーゼロンの各商品の説明に関する記事

地球にやさしいエコクリン商品の中に「アーゼロン」他が紹介されたという内容の記事

お客様が選ぶ人気通販商品の1位にアーゼロン、6位にアーゼロン衣類用洗剤、7位にアーゼロン台所用洗剤がそれぞれ選ばれたという内容の記事。

編集後記

今回の特集記事において、飯塚明司さんへのインタビューと鈴木静夫さんからの寄稿が今後の農業経営指針の一つになると思います。お忙しいところ、ありがとうございました。(Y・M)

アーゼロン・Cを使って数々の賞を受賞されたこと(本誌掲載)はとてもうれしいです。花や野菜同様、子育ても愛情一杯に育てれば、必ず成果は6出ることを感じました。(Y・O)

姪(8才)が干し柿を作りたいと言いはじめましたが、時期が遅く、今年は断念しました。食育のためにもと思い、来年分を予約し、食物の大切さを一緒に学べたらと思います。(K)

